ひょうご人権ジャーナル

きずな KIZUNA

6 2022年 令和4年

特集 男女共同参画

健やかに安心して
暮らせる社会づくり

INDEX

2 「月１回元気をチャージ！ 夢や目標を安心して語り合えるサードプレイス」
佐原　由紀子さん（働くママの朝活会　代表）

3 「自分らしく生きるために…男女共同参画の現状と課題」
澤渡　千枝さん（武庫川女子大学　生活環境学科教授 男女共同参画推進室長）

4 「父親の育児支援」
小崎　恭弘さん（大阪教育大学　教授）

5 「子どもたちが安全で安心できる「わが家」」
川西　悦子さん（一般社団法人　若葉　代表）

6 「シングルマザー移住支援から 子育てしやすいまちをめざして」
一般社団法人　リバーズランさん

7 トピック「ＨＩＶ感染者に対する差別と格差」
田沼　順子さん（国立国際医療研究センター　エイズ治療・研究開発センター　医療情報室長）

8 情報ぷらざ

ひろげよう こころのネットワーク

兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
兵庫県マスコット　はばタン

兵庫県では男女がともに、いつでも、どこでも、いきいきと生活できる社会（＝男女共同参画社会）の実現を目指して、「ひょうご男女いきいきプラン2025」に基づき、さまざまな取組を進めています。しかし、コロナ禍において貧困やDV（ドメスティック・バイオレンス）、女性の自殺数増加など女性を取り巻く諸課題が顕著化しています。

本号ではだれもが健やかに安心して暮らせる社会づくりについて考えてみましょう。

ひょうご男女いきいきプラン2025　検索

特集 男女共同参画

月1回元気をチャージ！夢や目標を安心して語り合えるサードプレイス

働くママの朝活会　代表　佐原（さはら）由紀子（ゆきこ）さん

兵庫県のすごい人を掲載する「すごいすと」で紹介され、働くママでありながら、積極的に「働くママの朝活会」の活動されている佐原さんにお話を伺いました。

Q 仕事と子育ての両立について

A 働くママも情報もまだ少なかった12年前の育休復帰時。「ママだから仕方ない」と出張の多い職を諦め、内勤職に異動しましたが、モヤモヤした気持ちが発生。その後イベントやセミナーで色々な働き方があることを学び、自分の人生ビジョンを主体的に考えるようになり、子どもの成長に合わせて働き方をアップデート。時短勤務や完全在宅勤務を経て、今は薬局で管理薬剤師として働いています。ライフステージの変化に合わせて、①様々な選択肢を知ること、②自分のありたいビジョンを描くこと、③子どもと家族の「今」を楽しむことが重要だと思っています。

Q 働くママの朝活会を始められたきっかけは

A 2016年7月に、働くママの繋がり作りがしたいという想いで立ち上げました。子どもが小学生になると送迎がなくなり、他の保護者と話す時間が減少。でも、平日は仕事、土日は習い事送迎で忙しい日々。「土日の朝であれば集まれるかも」と思いつき、ママ友や会社の先輩を誘って開催したのが始まりです。

Q どのような活動をされていますか

A 毎月1回、週末の朝7時～9時に朝活会を開催。「手帳術」「時短料理」などテーマ設定し、前向きに語り合っています。会社員、自営業など多様なメンバーが参加。2021年から「みんなが先生プロジェクト」を開始。毎年1月のビジョンボード作りも好評です。

Q 原動力を教えてください

A 「朝活に参加すると元気をもらえる」「夢や目標を安心して語り合えるサードプレイス」など、参加者さんから頂く嬉しい感想が原動力になっています。

Q 今後の抱負

A ポジティブタイム®*の作り方を伝えて、働く女性の幸福度をアップしたいです。子ども達が親になる頃には、女性も男性も一緒に働き、一緒に子育てするのが当たり前の社会になるのが理想。朝活はおばあちゃんになっても楽しく続けていきたいです。

Q 働く女性へのメッセージ

A まずは自分自身が心も体も健やかに、Well-beingに過ごすことが大切。自分が幸せだと、家族や周りの人にも幸せが連鎖します。「自分と向き合う時間」として、私は毎日「瞑想、手帳タイム、3つの良いこと日記」を取り入れています。一度きりの人生、ぜひ仕事も子育ても自分の夢も、全てポジティブに楽しんでいきましょう！

※ポジティブタイム®では、「毎日ご機嫌に過ごすタイムマネジメントの秘訣」をお伝えしています。

プロフィール

「働くママの朝活会」代表。ゆうづき薬局西宮戎店 管理薬剤師。中1、小6の2児の母。ワーキングマザー歴12年。ポジティブ心理学実践インストラクター。仕事、子育て、家事のバランスを上手く保ち、家族旅行や趣味の音楽、地域活動にも積極的に取り組み、ポジティブにパワフルに毎日を楽しんでいます。

自分らしく生きるために…男女共同参画の現状と課題

武庫川女子大学　生活環境学科教授
男女共同参画推進室長
澤渡（さわたり）　千枝（ちえ）　さん

75年も前の1947年5月3日に施行された日本国憲法では、第14条で国民の法の下の平等および、政治・経済・社会的関係において性別による差別をしてはならない、とするとともに第24条では家族関係における男女平等を定めています。男女の区別無く教育や職業選択の機会が保証され、当時の社会において大きな変革でした。しかし、職場での女性差別は残り、1985年の男女雇用機会均等法制定後、更に2回の改正を経た現在でも、働く女性にとって生きづらい状況がまだ続いています。

生きづらいのは女性だけではない

人間の場合、一般に男性の方が女性よりも筋力や骨格が丈夫ですし、また男性には妊娠や出産は不可能です。このような生物学的特性とは別に、「男性像」「女性像」のように性別によって適性や得意分野、社会的役割を固定されたものをジェンダーと呼んでいます。

ジェンダーによって「男性は外で働き女性は家庭を守るべき」、「女性は政治家に向いていない」「女性は男性に従うべき」と考える世の中では、「女らしく」と強いられ我慢している女性、女性であることを理由に認められず能力を発揮できない女性がいます。同時に、「男なのだから」「男らしく」と無理な負担に喘ぐ男性もいます。

このようにジェンダーに縛られた結果、自分の個性に応じた選択ができにくくなってしまうと、個人の人生においての損失となるだけでなく、人的資源を活かしきれない国の損失にもなってしまうのです。

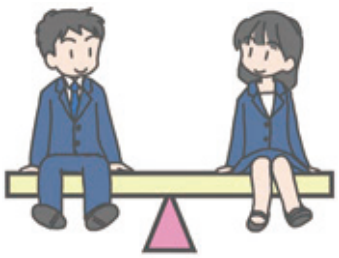
自分から変わっていこう

自分自身はジェンダーに囚われた考え方には陥っていません、と言明できるでしょうか。

例えば、「社長」という言葉を聞いて熟年の男性を連想しませんか。共働きで就労しているのに、女性が家事・育児・介護のほぼ全てを担う現状を当然だと思っていませんか。家事の一部を分担したとき、「本来は女性がやるべきことを手伝ってやっている」と思っていませんか。

このような、自分自身は気づいていない無意識の思い込み、偏見はアンコンシャス・バイアスと呼ばれています。これは、一見些細なことのようですが、放置され平常化するとストレスの蓄積やハラスメントに繋がり、男女共同参画社会を阻むものになります。

自分自身の持つアンコンシャス・バイアスに意識的に対処することも重要です。男女を問わず、ひとりひとりが個性と能力を発揮できる機会と環境を整えるべく、できることから一つずつ取り組んでいきましょう。



プロフィール

生活環境学部生活環境学科 教授（学術博士・工学博士，静岡大学名誉教授）。武庫川女子大学卒業後、奈良女子大学大学院人間文化研究科生活環境学専攻を修了。武庫川学院助手、McGill大学化学科博士研究員、静岡大学講師・助教授・教授、男女共同参画担当副学長等を経て、2018年4月から武庫川女子大学に再就任。2020年４月より男女共同参画推進室長を兼任。

父親の育児支援

大阪教育大学　教授　小崎（こざき）　恭弘（やすひろ）　さん

男性の産後休業の創設

育児・介護休業法が大きく改正され、2022年4月より順次施行されています。

今回の改定の最大の目玉は「男性の産後休業の創設」です。「産後休業？男性が産むわけでもないのに？」と思われた方もおられると思います。これは正式には「出生児育児休業制度」というもので、母親の出産後8週間の間に、通常の育児休業とは別に父親のみが4週間取得することができるものです。分割して2回まで取得可能なこと、条件付きではありますが出生児育児休業中に仕事をすることも出来るという、これまでの育児休業をさらに発展させ、より取得しやすくグレードアップしたものとなりました。私自身も3人の息子それぞれに20数年前に3ヶ月程度、育児休業を取得しましたが、その当時と比べるとまるで異なる制度の様に思います。とても充実した素晴らしいものだと言えます。

父親の育児ができる環境

今回の制度改定だけでなく「イクメン」といわれるように、近年「男性・父親」にフォーカスを当てた、子育てやその支援への取り組みが多く見られる様になってきました。街中でも、子どもを抱っこしているパパやベビーカーを押しているパパをよく見かけます。また保育施設の送り迎えなどでも、パパたちの姿が多く見られる様になってきました。この様な父親たちの変化に合わせて、社会全体で父親の育児ができる環境の整備が進められてきています。この様な取り組みが求められるには、大きく3つの理由があります。

1. 母親の育児負担の軽減

あまりに偏った母親の家事・育児負担を父親が関わることで、バランスの取れたものとするためにさまざまな参画が求められています。

2. 子どもたちの育ちへの配慮

子どもたちの育ちの環境が大変脆弱で乏しいものとなっています。父親の育児や教育の関わりが強く求められています。

3. 男性・父親の幸せの構築

父親自身の幸せや生き方の価値観の変化が起こっています。仕事だけではないより豊かな生き方の希求を、ようやく男性もすることができる様になってきました。

これまで男性の生き方はその幅が狭く、窮屈なものでした。父親が子どもと出会い、夫婦、家族と共に豊かな生き方を目指すことは、父親のみならず家族や地域の豊かさにつながります。男性の子育てをみんなで応援していきたいと思います。

プロフィール

西宮市初の男性保育士として施設・保育所に12年勤務。三人の男の子それぞれに育児休暇を取得。それらの体験より「父親の育児支援」研究を始める。父親の育児、ワークライフバランス、子育て支援、保育研修等で、全国で年間60本程度講演会等を行う。NPOファザーリングジャパン顧問、大阪教育大学附属天王寺小学校長

子どもたちが安全で安心できる「わが家」

一般社団法人 若葉 代表 川西（かわにし） 悦子（えつこ） さん

プロフィール

淡路島出身。大学を経て福祉の世界へ。児童養護施設、母子生活支援施設、自立援助ホーム等に勤め経験を重ねる。現在は自立援助ホーム「若葉」の施設長として頑張っています。

一般社団法人「若葉」は、何らかの理由で家庭にいられなくなった15歳から20歳までの女性が自立に向けて生活をするホームを設立しました。安全で安心して生活できる居場所づくりをされている若葉代表川西さんにお話を伺いました。

Q 自立援助ホームをつくられたきっかけは

A 20年程前にボランティアで行っていた夜回りでの子どもたちとの出会いです。子どもたちは家庭環境による様々な理由や事情から深夜徘徊をしていました。親からの様々な虐待、女の子は父親からの性暴力に耐えている。そんな子どもと関わりながらいつか安全で安心できる居場所を作りたいと思いながらいろいろな福祉施設での勉強を重ね、今年の1月20日「若葉」を開設しました。

Q 利用者の現状は

A 施設に来る子どもたちの多くは様々な虐待を受けた子どもたちです。大人への不信感を抱えながら施設にやってきます。「若葉」は子どもたちのありのままの姿を受け入れます。子どもたちは安全で安心とわかれば自然と笑顔が見え始めます。そして心が穏やかになっていきます。

Q どのような環境づくりをされていますか

A 子どもたちにとって施設は「わが家」です。子どもたちが帰ってくるとリビングから出迎え「おかえり」と声をかけています。食事もみんなで一緒に食べて家族と同じように時間を共に過ごします。「若葉」は子どもたちが自分らしくのびのび生きられる環境を提供しています。

Q 今後の抱負

A 「若葉」の〝自立〟は一人で何でもできることではなく、自分でやろうとすること、自分でやる意欲を持つこと、人との関わりの中で自分自身が困ったり迷ったりしたときに人に相談や助けを求めていける人になってもらうことを目指しています。

Q 県民の皆様へメッセージ

A コロナ禍の中、以前にも増して虐待・ネグレクトが社会的な問題になっています。家庭内から発せられる子どもたちの叫び声や泣き声は子どもたちからのSOSです。近隣の方一人ひとりが周りに関心を持ち、子どもたちを守っていただければ幸いです。

自立援助ホーム若葉HP
https://www.wakaba2021.com/

ひょうご女性サポートSNS ～こころちゃっと～

女性のためのSNS相談「こころちゃっと」を実施しています。

この2次元コードからアクセス！
スマホでもパソコンでもアクセスOK！
https://cocorochat.com

新型コロナウイルスの影響でくらしが大きく変わる中、ひとりで悩んでいませんか？

あなたの気持ちが少しでも軽くなるよう、女性のためのSNS相談や女性どうしが悩みを話し合えるWEB居場所を開設しています。また、生理用品の無料配布も行っています。

気軽にご相談ください。

URL https://cocorochat.com

県民生活部男女青少年課

シングルマザー移住支援から子育てしやすいまちをめざして

一般社団法人　リバーズラン（神河町）
村田（むらた）侑子（ゆうこ）さん
飯田（いいだ）千晶（ちあき）さん

子育て女性の悩み

地方から都市へと若者が流出し、そこに定住し、結婚をして実家から遠く離れて子育てをはじめると、子育てや家事に協力的でない配偶者を持つ女性は、頼るべき人も近くになく、多くの悩みや困難を抱えることになります。シングルマザーになった場合、夫婦で協力しあっていても大変な子育てや家事、仕事を一人でしなければならなくなります。離婚時に約束された養育費が払われず、子育てのために時間的な余裕がないとか、心身的疲労から定職に就くことができず収入が減って貧困に苦しむシングルマザーも少なくありません。

シングルマザーの移住サポート

私たちが運営する移住相談窓口にも、自然の中でのびのびと子育てがしたい、穏やかに子育てを楽しみたいという思いなどを持つ多くの人たちからの問い合わせがあります。その中には、DV（ドメスティック・バイオレンス）や各種のハラスメントなどから逃れるため、転居を余儀なくされるケースも見られます。

このような経験を持つシングルマザーが安心して生活していくためには、いろいろな支援を充実させていく必要があります。そのため神河町では、一例として子どもの体調不良で仕事を休まなくてもすむように、保育所の充実だけでなく病児・病後児保育の確保など、支援充実に向けて取り組んでいます。

また、私たち（一社）リバーズランでは、気軽に相談できるスペースや、地域の人々と子どもたちとのコミュニケーションがとれる交流拠点の整備として、子ども食堂をかねた喫茶店のオープンをめざしています。

さいごに

シングルマザーに限らず、コロナ禍で地域のイベントや学校行事などが減り、様々なストレスや不安にさらされ孤独を感じている方も多いと思います。移住とは関わりなく、山と川が美しく、水と空気が美味しい神河町へお気軽にお越しください。

プロフィール

一般社団法人リバーズラン
所在地：兵庫県神崎郡神河町柏尾471-3
設立：令和2(2020)年
電話番号：0790-33-9500
開所時間：平日08:30～17:00
業種：その他サービス業
主な事業：神河町から移住定住相談等の業務を受託する。

ひょうご子育て相談

なやみ一緒に #7312

子育てに関する悩みを保育士に無料で相談。
必要に応じて看護師・助産師・栄養士・歯科衛生士などの専門家によるオンライン相談や家庭訪問も。まずは気軽に電話またはLINEでご相談ください。

対　象　兵庫県内で在宅育児（就学前まで）を行う保護者の方々
開設時間　月曜日～金曜日　9:00～17:00
（祝日・年末年始 12/29～1/3 を除く）
電話番号　#7312（直通電話につながります）
（直　通）078-362-4183
（県庁代表）078-341-7711（内線 2863、2873）
※通話料は通話者負担となります。

LINE 相談
LINEホーム「友だちの追加」より二次元コードを読み取り、友だちの追加。

●詳しくは
ひょうご子育て相談　検索

福祉部こども政策課

HIV感染者に対する差別と格差

国立国際医療研究センター
エイズ治療・研究開発センター
医療情報室長
田沼（たぬま） 順子（じゅんこ） さん

プロフィール

国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター医療情報室長。1997年東北大学医学部卒、2014-2016年ハーバード大学公衆衛生大学院客員研究員。2001年よりHIVの診療や研究に従事。国連合同エイズ計画との連携や薬害エイズ被害者に対する救済事業に携わり、患者参加型医療の実現を追求している。

HIV感染症の治療と予防の進歩

HIV感染症は、1980年代は治療法がありませんでした。しかし、現在は治療と予防法が確立し、治療によって感染していないひとと同じく長生きできるようになりました。さらには、血中のウイルスの量を低くおさえることで性行為の相手への感染リスクまでゼロになり、性行為も含めた日常生活上の制限がなくなったのです。今では、2030年までのエイズ流行終結とHIV感染者に対する差別根絶が世界の目標として掲げられています。

根深い差別

そもそも普通に生活している上で、相手にHIVを感染させるリスクは全くありませんが、HIV感染者に対する差別は続いています。家族や友人に病気を伝えられず、ひとり悩み苦しんでおられる方や、就職などで根拠のない差別を受けられる方も多数いらっしゃいます。

切実なのが医療機関による差別です。2020年の厚生労働省研究班の調査によると、首都圏の医師の約半数が勤務先の医療機関でHIV感染者の受け入れができないと回答していました。HIV感染者は、差別により医療を受ける機会が著しく損なわれているのです。

標準的な感染予防策を行っている限り、医療や介護の現場でHIVに感染する可能性はほぼありません。感染者も徐々に高齢化しており、複数の医療機関や介護施設が連携してケアにあたる場面が増えています。医療や介護の専門家こそ、正しい医学的知識を身に着け、HIV感染者に対する差別を根絶しなければなりません。

HIV対策は人権を守る戦いでもある

HIV対策の歴史は、人権を守る戦いの歴史でもあります。抗HIV薬はたいへん高額ですが、貧しい国にも治療が行き渡るよう2000年代前半から世界的なしくみづくりが行われました。安い薬がつくられるようになり、資金調達のしくみも多数つくられました。これらは日本が率先して取り組んでいる新型コロナウイルスワクチンの公平な分配に関する国際連携にとても良い影響を与えています。

国連は、まだエイズ対策には様々な格差があり、新型コロナウイルス感染症の流行でその格差がより鮮明になっていると指摘しています。治療法が確立されウイルスそのものを制御することが可能になりましたが、社会問題としてのHIV感染症との戦いは続いているのです。ひとりひとりが正しい知識と思いやりを持ち、HIV感染者と共に生きる社会を実現することが必要です。

映画紹介

『グロリアス　世界を動かした女たち』

© 2020 The Glorias, LLC

本作の主人公グロリア・スタイネムは1950年代から現在まで活躍を続ける社会活動家です。男女の就労機会均等化、人工妊娠中絶の合法化、女性の性の商品化に対する警鐘、アメリカ先住民の首長選挙での女性候補の応援まで、活動は広範です。

彼女が雑誌記者から活動家へ踏み出したきっかけは、公民権運動で出会った黒人女性の「白人女性が自分のために闘わずに、他人のために闘える？」という一言でした。情けないことですが、いつの世も当事者が声を上げなければ差別は終わらないのです。

旧い価値観にとらわれた人々は、女性運動を矮小化しようとします。「ごく一部の過激な女性が何にでも反対しているだけ」と。女性であっても、グロリアに反発する人がいます。女性の声には、グロリアは反論するより耳を傾けようとします。

女性は誰しも女性というだけで差別されているのだから、グロリアは様々な女性の声を代弁するとともに、当事者として戦っているのです。

■監督：ジュリー・テイモア
■2020年　アメリカ　英語　147分　■原題：The Glorias　■提供：木下グループ
■配給：キノシネマ　シネリーブル神戸で6月3日より公開　■お問い合わせは、078(334)2126

情報ぷらざ
information

「のじぎく文芸賞」作品募集中

～あなたの思いを作品に書いてみませんか～

- **募集部門**：小説・随想（手記・作文を含む）・詩・創作童話
- **応募条件**：兵庫県内に在住、在勤、在学の方
- **応募作品**：インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品
  ■詳細については、協会ホームページをご覧になるか、お電話（下記参照）でお尋ねください。
- **応募方法**：郵送に限ります。
- **募集期間**：令和４年６月１日(水)～９月９日(金)まで（消印有効）
  〒650−0003　神戸市中央区山本通4−22−15　県立のじぎく会館内
  (公財)兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係

6月は「兵庫県エイズ予防月間」です。

兵庫県では、6月1日～6月7日の「HIV検査普及週間」と合わせ、毎年6月を「兵庫県エイズ予防月間」とし、各健康福祉事務所(保健所)でHIV・エイズ対策の強化を図っています。

令和４年度の「HIV検査普及週間」のテーマは

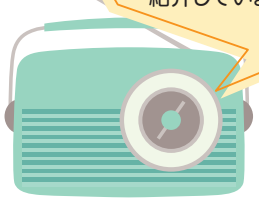
「保健所なら無料・匿名、受けようエイズ検査」

としており、HIV・エイズに関する正しい知識の普及や健康福祉事務所(保健所)における相談や検査等に重点的に取り組んでいます。

詳しくは
https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf16/hw12_000000004.html

保健医療部感染症等対策室感染症対策課

ラジオ関西
「谷五郎の笑って暮らそう」
(毎週火曜日10:00～13:00)で、12:30頃から「きずな」の記事等を紹介しています。



HALF TIME

子どもたちが選ぶランドセルの色はジェンダーレス化が進んでいます。7割は赤、黒以外で性別にとらわれない色を選んでいるというニュースを目にしました。

女性だから男性だからというジェンダーバイアス(男女の役割や性差についての固定観念や偏見を持つこと)を取り払い、誰もが一人の人間として尊重される社会を目指していきましょう。

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。
兵庫県人権啓発協会　検索

(公財)兵庫県人権啓発協会　〒650-0003　神戸市中央区山本通4-22-15　県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355　FAX 078(242)5360　info@hyogo-jinken.or.jp

2022(令和4)年6月発行